

# 同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

3  
2017  
MARCH

山形県中小企業家同友会  
月刊 同友  
やまがた



## 2017 新春交流会

“沈潜の風”～内なる力を解き放て、今こそ実践の時!!～

### 記念講演

夢・挑戦・誇り～フロンティア精神のその先は～

### 就職懇談会

地域に若者を残し、一緒に育てていこう!

～地域の学校と意見交換し「就職」について一緒に考える～

山形同友会!  
未来へ向けて、  
新たに!!  
より地域に  
必要な存在へ

2016年度スローガン

## “沈潜の風”～内なる力を解き放て、今こそ実践の時!!～



山形同友会は1月27日東京第一ホテル鶴岡に於いて、2017新春交流会を開催しました。

山形同友会初の取り組みとなる、全県行事を支部主管での開催となり、庄内支部中心で組織した実行委員会が随所に「庄内らしさ」を盛り込んだ内容となりました。

スローガンには「“沈潜の風”～内なる力を解き放て、今こそ実践の時!!～」が掲げられました。これは常には静かに地道に力を養い、いざという時にそれを大いに発揮する庄内人の気質を評した言葉になぞらえ、「実践する」を重要課題とした意味が込められました。

当日は会員を含めた行政、各団体、金融機関、ゲストを含めた116名が参加し、第1部記念講演、グループ討論、第2部懇親会が行われました。

来賓としては鶴岡市小野寺商工観光部長、庄内町奥山副町長、鶴岡商工会議所加藤専務理事、出羽商工会長南経営支援係長、山形県信用保証協会林常務理事、山形銀行吉田鶴岡支店長、庄内銀行田村常務執行役員、山形県信用金庫協会副会長兼鶴岡信用金庫佐藤理事長、山形信用金庫伊藤業務部長がご臨席、新春のご挨拶をいただきました。

記念講演は、井上農場 代表 井上馨氏が、「夢・挑戦・誇り～フロンティア精神のその先は～」と題し講演。鶴岡市内で農業を営む井上代表は、農家の跡取りとして就農時の

田んぼ3ha(ヘクタール)を44haまで拡大しました。しかしそれは順風満帆な道のりではなく、家族やスタッフ、農業仲間や地域が幸せになるために、苦渋の決断をしなければならぬ状況が何度もありました。

その折々で、時には農業のタブーと言われたことにも挑戦し、結果を出してきた井上代表の原動力は「農業にかける思い」と「まずは実践する」でした。「行動を起こしてのマイナスは、行動を起こさないとはいはずっといい」との信条を胸に、多面的に見た商品開発、お客様の顔が見える営業活動。また、以前は一番が井上農場でスタッフは二番と考えていた井上代表ですが、今はスタッフを一番とし、スタッフ全員が笑顔で仕事をしてくれるようにと、給料制の導入や農業の地位向上にも取り組んでいます。

「思いを込めて米・野菜を作り、お客様から喜んでいただく。私にとって大変幸せです」と語る井上代表からは、中小企業経営にも通ずる、大切な学びがありました。

懇親会では、「庄内らしさ」をふんだんに盛り込んだ演出があり、実行委員長がほら貝を鳴らした山伏を先導させた入場や、庄内の日本酒の飲みくらべコーナーなどが会場を盛り上げました。参会者の皆さんは、今年一年の飛躍を誓い合い、大盛況の内に幕をおろしました。



## 記念講演

## 夢・挑戦・誇り～フロンティア精神のその先は～



私は1952(S27)年生まれ、還暦はとうに過ぎました。その時代の農家では、長男が生まれた瞬間に跡取りになる運命でした。先輩や友人も、農家の長男ゆえに農業高校に入り、農家の後継ぎというお決まりのコースに

乗っていました。

中学高校とバスケットボールをやっていました。高校時代には宿敵日大山形高校を倒して山形県で1位になりました。東北大会では過去4冠の実績をもつ秋田県立能代工業高校と当たり、敗退はしましたが大健闘でした。できればバスケットボールで大学に進み、恩師のように安定した給料もらいながら好きなバスケットの顧問になりたい。そんな思いを高校時代に温めていて、なんとか農業をやらなくてすむ方法を模索していました。

そんな中、日本体育大学から推薦が届き、望み通りになるのではないかと喜んだのも束の間でした。父親からは「来春からは手伝いをしてもらおう」と一蹴されました。農家に対するイメージは、暗くて汚くて金にならないと思っていて、やりたくなかったのですが高校卒業と同時に農業に就きました。

### 農業一本で食べていきたい

私が就農したとき、我が家では3ha(ヘクタール)の農地で米を作っていました。それは冬期間に出稼ぎをしないと暮らせない規模で、当然私も冬期間は地元歌手のお抱え運転手や廃品回収業のアルバイト等の出稼ぎをしました。

常々規模を拡大したいと思っていましたが、私が21歳の時に父親が脳梗塞で倒れ半身不随の状態でした。実際に父親と一緒に仕事をしたのは3年足らずで、金銭的な収入の少なさを含めて専業でやるのが大変難しい状況でした。

結婚は22歳の時でした。家内は当時銀行員で、農作業を手伝う約束で結婚したので、結婚後は農外収入がなくなりました。もちろん小遣いや給料は出せるわけもなく、生活の苦しさが身に染み、なんとか専業農家で食べていきたいとの思いは1年1年強くなっていきました。今でこそ農地が44haになりましたが、初めて農地拡大できたのは34歳でした。父親の友人からやっと1枚の田んぼを借りることができ、これまでの生活を振り返ると涙が出るぐらい嬉しかったです。

### 自分の力で販売していく

米の販売は、父親や親戚含めてずっと農協に出荷するのが当たり前で、当時は私も農協に販売していました。それどころか、「JA庄内たがわ」の生産組合長会の会長を2年間、その間1年は庄内全体の会長もしました。その頃は農業に対する大きい危機感があり、組合長にも熱く意見をぶつけていましたが、変わらない組織状況に疑問を持ちました。私自身も農業だけで生きていこうと思っていたので、自分の農業の信念を貫く為に農協から離れる決断をし、仲間の農家と「庄内米工房」という販売組織を立ち上げました。農協という販売先を失った私ですが、庄内米工房での販売、代表の営業力、そしてかつては生産者の会長までした人間が農協に一粒も出さないということが話題になり、最大のピンチがチャンスになりました。

庄内米工房は順調でしたが、取り引きしている商社がだんだんダンピングをしてきて、ロットがあるほど単価が低くなっていきました。最終的には別の産地から入れるという話まで出され、このままではかつての農協のようになってしまうのではないかと、やはり自分の力で販売をしなければならぬと感じていました。

その頃、偶然にも長女が鶴岡市にあるレストラン、アルケッチャーノに就職しました。その店でも米や野菜を使ってくれるようになりました。また、オーナーからはいろんな人を紹介していただき、その中で出会った『四季の味』の編集長とはお互いが農業を通じて認め合うようになり、無償で記事を書いてくれました。それがきっかけとなり個人のお客が増えていき、その後も他の雑誌に取り上げられたり、物産展に出展したりと、個人のお客と触れ合う機会を作っていました。現在、売り上げの9割以上は個人のお客様です。これが自主販売に至る経緯ですが、自分の思いを胸に米・野菜を作りながら自分の思いで単価を決め、お客様から認めていただく、喜んでいただく、私にとって大変幸せな環境であると思っています。

一人ずつ丁寧に辛抱強く、生産者の気持ちを伝えながら、お客様に認知していただくとの思いで販売をしてきました。そんな取り組みを続ける中、私自身の米に対する見方が徐々に変わってきました。米の商品の単位としてのイメージは60kg・30kgでした。精米して2kg・1kg・500gに分けると、それだけで商品の数が増えます。量目を変えパッケージを変えるだけで素晴らしい商品になっていく、同じコメを上から下から右から左から斜めから見ることによって、いろんな商品ができるんだと思いました。ありすぎ

るのも問題かなと思いますが、商品づくりの大切さを肝に銘じています。

## 誇りのもてる農業へ

今は息子が就農して、息子の奥さんも長女も今一緒に仕事をしています。家族以外のスタッフも含めて約10人で44haの農地で米を作っています。息子の就農と同時に、初めて給料制にしました。ちょうどその頃、農業委員をやっていたこともあり、旧藤島町ではじめて農家の家族協定を結び給料制にしました。それからは毎月給料を払っているので、息子にもエラそうなことを言えるようになり、それが逆に冷静にスタッフ全員と話し合えるようになりました。それが今のミーティングになり、月曜日から金曜日まで毎日、農家でありながらも仕事の確認や打ち合せをしています。ミーティングはわずかな時間ですが、スタッフと有意義な時間を過ごせていると思っています。その時間を通じて、「自らが井上農場の代表なんだ、主役なんだ、井上農場は自分のものなんだ」との思いで仕事をしてほしい。そういう話も常日頃からしています。

やりたいことをやり過ぎてしていると、だんだん憂鬱になります。自分が自分に憂鬱感をもちはじめ、ますます動けなくなります。行動を起こしてプラスマイナス0の時も、ましてやマイナスの時もあります。ですが、スタッフには「行動を起こさないよりはずっといい」と言っています。たとえマイナスであっても反省が残ります。なんとかプラスにするにはどうすればいいか？できないようであれば方向転換のきっかけになる、そんな「行動を起こす重要さ」を伝えながら進んでいければと思っています。また、時には綿密な計画も必要かもしれません。しかし計画や思案が長くなりますと、行動を起こす力がなくなってしまう時があります。できれば行動を起こしながら計画をしていく。計画を立てたなら早く行動を起こしていくことが重要だと考えています。

## 農業のタブーを打ち破る！

現在、米の他に16棟の栽培ハウスがあり、夏は樹熟トマト、冬は小松菜栽培をしております。それらを活かして、女性スタッフの発想力も借りて、トマトジャム・レトルトのトマトスープ・フリーズドライの小松菜や庄内柿。つや姫を使ったぼん菓子も作っています。それはかつてはタブーでした。農家の場合、「余計なことはするな」と言われるのがオチです。しかし、「専業で食べていく」ということは、ハウスの中で野菜を作るという新しい行動を起こすことも必要な状況でした。

今でも米を売る難しさを感じます。これまで東京・名古屋・岡山など、数々の物産展に出展してきました。しかし米単品を持ち込んでお客様はまず振り向きません、皆さん

自宅に米があるんですね。そこで思いついたのが、加工品も一緒に出展することです。トマトの加工品やつや姫の麴で作った甘酒を試飲させながら、米に誘導するような仕掛けをしたところ、だんだん米が売れるようになりました。今、ブースでは加工品が半分、米が半分のシェアになっています。“米を買う気はなかったのにつつい買ってしまふ”その販売のやり方一つとっても、加工品となる野菜を作る行動を起こしたことが今になって生きてきています。

## 一番大切なスタッフと共に

以前、鹿児島県の先輩農業者に「井上君、百姓で1億売らないと本当の百姓とはいわないよ」と言われました。また、私が農業を始めた頃は、周りから8桁農業を実現しなさいと言われました。お陰様で今、9桁農業を目指しています。スタッフみんなが健康で一生懸命に仕事に精を出してくれれば、2、3年の内に1億円を突破できると思います。

また、ある先輩からは、「30代は30万円、40代は40万円の給料をやりなさい」と言われました。その時は「無理だろう」と思いました。ですが現在、30代で30万の給料を払えるようになりました。2年前の私は、井上農場が一番大事、二番はスタッフという考えでした。しかしあることを機に、スタッフが一番、そのスタッフを支えているのが井上農場であると意識を変えました。スタッフのみんながいればこそ、井上農場が維持・発展できると思えるようになりました。今、スタッフは笑顔で仕事をしてくれています。

加工品を作る上で、いろんな方と連携をさせていただいております。これから福祉の方々や異業種連携をして、農福連携を進めていきたいと思っています。障がいをもつ方々から農場に来てもらい、仕事をしてもらい、心をリフレッシュして喜んでいただく。農場にはいろんな仕事があるので連携できると確信しております。そんなふうに関わりながら、いろんな方々と出会いながら、いろんな連携をしながら、独り勝ちするのではなく地域と一緒に歩む農場を作っていきたいと思っています。

最後に、本日は行動を起こす大事さを語ってまいりましたが、本当は今回の件は断りたかったのです。ですが「ステージに上がる」という行動を、自ら実践したということをご様にお見せできたのではないのでしょうか。



# 地域に若者を残し、一緒に育てていこう！ ～地域の学校と意見交換し「就職」について一緒に考える～



1月23日、山形テルサを会場に共同求人委員会主催「就職懇談会」が開かれ、県内の大学・短大・専門学校の就職担当者10名と同友会の会員と採用担当者32名が参加しました。

冒頭、挨拶に立った玉津委員長は同友会の理念と活動を紹介し「少子高齢化の影響で中小企業の新卒採用が厳しくなっている。同友会は人を生かす経営をめざし、共に育ち合う考えのもと採用から育成まで一貫した取り組みを行っている。共同求人活動は地域に人を残す活動でもあります。一緒に地域に若者を残し、育てていきましょう」と述べました。



山形大学准教授 松坂暢浩氏が「学生に選ばれる企業のポイント～若者の就職活動の現状～」と題して、学生の傾向と大学の取り組みを交えて講演しました。

松坂氏は一般的に学生ひとりで約40社にプレエントリーし、そこから約20社に応募書類を出して筆記や面接試験を受けているという就職活動の流れを紹介。学生にとっては応募書類の志望動機の記入が高いハードルとなっていて、その要因として書くための企業情報が少なすぎることを挙げました。また、地元志向の学生は転勤を好まない傾向があり、転勤がない場合はしっかりメッセージとして強調することや、親の影

響も非常に大きくなっていることから学生の親御さんへ会社の魅力を伝えるアプローチも必要となっていると指摘しました。

そして、①地域の学校と連携し地域の若者を育てることで自社の社員を育てる共育の考え方を持つこと②インターンシップ等を通して学生に企業理解を深めてもらい、今後の採用へとつなげること③中小企業の魅力は社長の魅力、社員の魅力で人の魅力が鍵になること④地域の学校と企業がもっと「face to face」の関係づくりをしていくことを提起しました。

その後、グループ討論と名刺交換会が行われ、学校と企業の立場から学生の就職活動について意見交換しました。今後の課題としては「学校に足を運びリアルな情報を交換する」「入社後の将来の姿が見えるようにする」「中小企業の魅力、経営者、社員一人ひとりが魅力をピーアールした情報発信する」といったことが挙がり、安心感を与える企業づくりを進めていく必要があることを学びました。

参加した学校からは「企業の考え方を知り、お互いの考えや取り組みを交流できる場が欲しかった」、企業側からは「これから採用活動するにあたり、取り組むべき課題が分かった」といった感想が寄せられ、学校と企業が連携を深めていくことを確認しました。

後日「これから学校で就職活動をする学生と親御さん向けの説明会を行う時に同友会の就職情報サイトJobwayの紹介をすることになった」という連絡もあり、共に育ち合う共同求人活動が学校にも広がる機会となりました。



# 山形県中小企業家同友会 第33回定時総会

日時: **4月26日(水)**

受付:午後12時30分 開会:午後1時

会場:パレスグランデール

山形市荒橋町1-17-40  
TEL.023-633-3313

参加費: ①総会 **無料**  
②記念講演 **2,000円**  
(会員に同行の社員は無料)  
③懇親会 **6,000円**

## タイムテーブル

|     |         |             |
|-----|---------|-------------|
| 第1部 | 定時総会    | 13:00-14:35 |
| 第2部 | 記念講演    | 14:45-16:35 |
|     | グループ討論  | 16:45-18:30 |
| 第3部 | 懇親パーティー | 18:45-20:30 |

## 記念講演

テーマ  
**社員の可能性を引き出す経営者の役割**  
～社員教育は社長教育～

講師:岡山トヨタ自動車

代表取締役社長 **梶谷俊介氏**

(中同協社員教育委員長・岡山同友会常任相談役)

1991年に同友会入会。社員の真剣さに圧倒される。店長教育に最適と思い店長を同友会に入会させ、自身は同友会から遠ざかった。社員教育大学には幹部が社員を連れて参加していた。1998年に復帰し、2006年に社員教育委員長となって初めて社員教育大学に参加し、同友会の社員教育は「社員教育を通じて経営者が育つことが真髄」と気づきます。労使見解やユネスコ学習権宣言にも照らして「経営者は社員の可能性を引き出す場や環境をつくるのが大切」と語る梶谷氏の取り組みから同友会の社員共育の原点を学び、人を生かす経営の総合実践を考えます。

## 第33回定時総会実行委員長挨拶



第33回定時総会実行委員長  
株式会社カーサービス山形  
代表取締役 小川大輔

昨年、第32回定時総会副実行委員長として高橋明実行委員長の下に学び、今回大役を仰せつかりました第33回定時総会実行委員長の株式会社カーサービス山形の小川と申します。

2017年度山形同友会は、『地域社会の主役としての自覚と誇りを持とう！～経済を牽引するのは私たちだ～』をスローガンに掲げ、それに向かい始動する定時総会となります。

また第3次中期ビジョンを作成し、会員の皆さんと将来を見据えた同友会活動、組織活動の強化に取り組み、会員の皆様に同友会の素晴らしさをもう一度実感していただくことや増強など新たな取り組みをスタートする年度ともいえます。

それを踏まえ第33回定時総会の記念講演は、中同協社員教育委員長、岡山トヨタ株式会社代表取締役社長の梶谷俊介氏を講師に招き、同友会の原点である『人を生かす経営』を主題とし、『社員の可能性を引き出す経営者の役割』と銘打って報告いただきます。

以前、「社員教育が最大の地域貢献」という梶谷委員長の言葉を聞いたとき感銘を受けました。なぜそうなのかを考えながら講演を聴いていくと、私たち経営者の役割は会社を運営するだけでなく地域社会に絶大な影響を与えている存在であることに気づかされました。それは、私たちがそういう気概を持って、社員の皆さんや地域の皆さんと関わっていかなくてはならないのだと。そして同じ思いで会社経営をしている、山形同友会の皆さんにもじっくり聞いていただきたい、そんな思いから梶谷委員長をお招きするに至りました。

経営者の皆様だけでなく、ぜひ経営幹部や店長、管理職の方々と奮ってご参加ください。

# 3月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

## 山形支部

### ビジョン経営で地域に必要とされる企業づくりへの実践

2017.3.22 (水) 18:00~20:30

場所: 山形ビッグウイング 4階 研修室  
山形市平久保100 ☎023-646-6677

報告者: 株式会社ヴィ・クルー 代表取締役 佐藤 全氏  
(中同協共同求人副委員長・宮城同友会副代表理事)

(株)ヴィ・クルーは、宮城県白石市でバス専門の車体整備、車体製造、製品開発と新しい可能性と時代のニーズに対応した取り組みを社員と共に情熱とあふれるパワーで続けています。

ここまで来るには幾多の困難と危機も経験してきた佐藤社長。2004年宮城同友会の「経営指針を創る会」を受講した当時は乗用車も含め車両全般を取り扱っていたが、現状認識・情勢認識・自社の立ち位置、強み・弱みを把握する中で業界の現状を知り、バス事業に特化していきます。分社し、(株)ヴィ・クルーを立ち上げ「人・車・地球を元気にする企業」と事業定義し、理念を掲げて10年ビジョンを示し、新卒採用を継続しながら社員と共に進めてきた実践報告です。

先行き不透明な今、必見です。ぜひ、お問い合わせの上、ご参加してください!

## 寒河江支部

### なぜ障がい者を雇用するのか?

2017.3.22(水)19:00~21:00

場所: 寒河江市技術交流プラザ 2F  
寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者: 株式会社リプライ 代表取締役 安藤克敏氏

皆さんは、障がい者が自社で働く姿を想像したことがあるでしょうか?

寒河江支部3月例会は、実際に障がい者を雇用し、大切なパートナーとして接している(株)リプライ安藤社長からご報告いただきます。自社の仕事を細分化し、「障がい者でもできる仕事」を工夫することにより雇用数を増やしてきました。真面目な仕事への取り組み方や仕事への集中力、実際の仕事ぶりや社員に与える影響など、具体的な報告が聞ける内容です。障がい者への固定観念を壊し、自社でも雇用できることはないか?を考えるきっかけにできる例会です。

## さくらんぼ支部

### 技能検定取得の推進と経営課題 ～技能評価制度の構築～

2017.3.30 (木) 18:30~21:00

場所: さくらんぼタントクルセンター 栄養指導室  
東根市 中央1丁目5番1号 ☎0237-43-1155

報告者: 西道精工(株) 代表取締役 奥山浩哉氏

西道精工さんでは社員の技術力や技能が会社の財産という思いで、社員の技能検定の取得に力を入れており現在では6割以上の社員が技能士の資格を取得しています。現在は技能検定手当として給与に上乘せていますが、多くの社員が取得することによって給与にあまり差がつかなくなってきてしまうといった悩みも抱えています。今後はこの制度に加えて、社員の努力が公平に賃金に反映されるような評価制度を構築していきたいと考えています。

社員の皆さんのモチベーションが上がり、それが会社の業績アップにつながるような賃金制度について一緒に考えてみましょう。是非、お問い合わせの上ご参加ください。

## 置賜支部

2017.3.17 (金) 18:30~21:00

場所: 伝国の社  
山形県米沢市丸の内一丁目2番1号 ☎0238-26-8000

報告者: (株)長沢建設 代表取締役 長澤武氏

詳細は後日お知らせいたします。

## 庄内支部

### 20年連続黒字の秘密 ～一人ひとりを輝かせる心の経営～

2017.3.23(木)18:30~21:00

場所: 酒田市総合文化センター 310会議室  
酒田市中央西町2-59 ☎0234-24-2991

報告者: (株)東洋開発 代表取締役会長 草深夏哉氏

東京生まれの草深会長は、奥様の実家がある酒田を訪れたときに「この町で暮らしたい」と思うようになり、今までやっていた仕事とはまったく関係のない不動産業を立ち上げました。その企業は創業から22年間、黒字経営を続けるまでに成長しました。しかしそれは決して平たんな道ではなく、自分の中の変化、失敗などをくり返ししながら、社員が笑顔で働く環境づくりに取り組んできました。また、45歳のときに社長を譲り、マネジメントしながらも新たな試みに挑戦するなど、とてもパワーあふれる草深会長の報告です。

間違いなく聞いた人は得をする内容となっております。是非、社員さん、ゲストさんお問い合わせの上参加ください。

## 新庄最上支部

### 買うだけじゃない、売るだけじゃない。 ～kitokito marcheは人と人とがふれ合う場所～

2017.3.21(火)18:30~21:00

場所: 新庄信用金庫文化ホール レキシントン  
新庄市本町2-9 ☎0233-22-4222

報告者: 吉野敏充デザイン事務所 代表 吉野敏充氏

新庄最上支部3月例会は、新庄市の「キトキトマルシェ」の仕掛け人、吉野敏充デザイン事務所 代表 吉野敏充氏の報告です。「キトキトマルシェ」の語源はフランス語で、キトキトは「ゆっくり」マルシェは「市場」の意味。「ゆったりとした時間」「作った人が売る」をコンセプトに5月から11月まで地域の良さを伝える場として開催され、今年で6年目となります。今では市内外からたくさんの方が訪れ、行列を成すほどの人気イベントです。始めたきっかけは、「『経済成長が進んだ故に失われてしまったものがあるのではないか?』『ものが溢れすぎている現代、本当に大事にしなければならぬものは何なのか?』との思いから」と話す吉野氏。地域の良さを再確認する、また、私たちが地域に何ができるか?を吉野氏の思い・信念に学びます。

■開会挨拶(西塔代表理事)

悩みや課題を率直に言えば力を貸してくれる人も出てくる。同友会を全面的に活用する必要を感じています。会員一人ひとり体験や知識が違うので、なんとかなるかもしれない。同友会でいい事を言っても実際に自分の経営に活かしているか。同友会を活用してどう変わったか、自分の体験を話せる語り部になりましょう。

■報告事項

1)中同協第3回幹事会(1/13~14 東京)

西塔・菅原・後藤・矢作参加

中同協総会の議案にはグループ長がその会議の成否を決めるので積極的に受け入れましょうとありました。グループ長はみんなの意見を引き出して何かヒントを持って帰ってもらうのがグループ長の役目です。また、長年役員を続けていくいろいろな人との繋がりも増えてきます。詳しくは報告書と植田先生の情勢についての報告が「中小企業家しんぶん」に掲載していますので読んでくださいと報告しました。(西塔代表理事)

グループ討論では各地の状況、求人話題となり、中小企業と言うだけでと親が反対するために大学側が消極的になるという話があった。親が中小企業で働いている場合もあり、企業づくりはいろんなところに反映されると報告しました。(後藤副代表理事)

2)2017新春交流会(1/27)

「みなさんの協力があって無事終わることができ、ありがとうございます。参加人数は107名で目標の130名に届かなかったが新庄最上支部の目標達成と庄内支部の頑張りがあった」とお礼を述べました。(佐藤理事)

\*2月9日に実行委員会を行い、まとめ案と収支報告書を3月理事会に報告します。

3)就職懇談会(1/23)

参加者数 学校:9校10名 同友会:26社32名

初めて就職懇談会を開催し、学校側からはとても良かったとの感想があった。後日、参加した専門学校から「他校の取り組みや大学生の就職活動の現状を知る機会となった。卒業する保護者向けの説明会にジョブウェイの紹介をする」との連絡があった。また、企業側からも色んな気付きがあったという事で、定期的に行うことを確認した。(矢作事務局長)

4)山形市との条例学習会(2/2)

山形市から6人、同友会から6人が参加。山形市では40年前に作成した条例があり、政策も立案し施工していること、理念条例は県でも国でもあるならば山形市でつくる必要があるのかといった考えから理念条例をつくる意義がわからないということで、なぜ理念条例が必要なのかについて具体的な例を挙げて説明した。これを機会に中小企業の意見、考え方をよく伺いたいというお話もあり、今後継続していくことになりました。(齋藤専務理事)

5)経営指針・社員共育合同例会(2/7)

経営指針から後藤社長・社員共育から庄司社長が報告した後、経営課題を出し合いながら規模別でグループ討論を行った。参加者は経営指針を実行推進しているので、場のレベルが高かった。更に連携を深めながら人を生かす経営に向けて、どこから取り組むのかを考えながらやっていく。第1回目としてはいいスタートを切れました。(阿部理事)

6)高橋事務局次長退職(3月末付)の報告(西塔代表理事)

7)2016年度1月月次決算報告(矢作事務局長)

■承認事項(入・退会承認) 1名入会 1名退会 2/8現在417名

■討議事項

議題1:第3次中期ビジョンについて

後藤副代表理事が各支部・各委員会・各部会で実行計画が挙がり、多少見直しも出てきていると説明し、現在の状況を確認しました。

議題2:第33回定時総会について

小川理事が今回は第三次中期ビジョンの発表があり、いつもより30分早い開会にすることを説明し、タイムスケジュール案が決まりました。

議題3:議案書の作成にあたって(提案:西塔代表理事)

1)2016年度活動のまとめ(案)次回継続検討

2)2017年度活動の方針(案)次回継続検討

3)2017年度理事(案)次回継続検討

・役員公募については、現理事会運営規程に基づき文書を作成し、同友ニュース3月号に同封、e.doyu掲示板にて公募します。

公募期間:2/27(月)~3/6(月)

議題4:役員選考委員選出の件(提案:西塔代表理事)

3月理事会まで各支部より選出していただくことを確認しました。

議題5:中同協代議員について

西塔代表理事が中同協第49回定時総会は参加者を事前登録し、代議員となることを説明し、中同協よりの10名の案を承認しました。

議題6:事務局員採用について

西塔代表理事が高橋事務局次長の退職に伴い、正事務局員1名を採用することが提案され、承認されました。

■その他

1)今後の行事予定

|                   |                 |           |
|-------------------|-----------------|-----------|
| エネルギーでまちづくり紫波町ツアー | 2月13日(月)~14日(火) | 岩手        |
| 第47回中小企業全国問題研究集会  | 2月16日(木)~17日(金) | 鹿児島       |
| 福島同友会創立40周年記念総会   | 2月24日(金)        | 郡山        |
| 東北ブロック事務局長会議      | 2月25日(土)        | 郡山        |
| 中同協・女性部連絡会        | 3月2日(木)         | 大阪        |
| 中同協・第4回幹事会        | 3月10日(金)        | 東京        |
| 春の合同企業説明会         | 3月23日(木) 13:00  | 山形テルサ     |
| 合同入社式・新入社員研修      | 4月6日(木) 9:00    | 山形ビッグウイング |

2)第11回理事会日程


●日時:3月8日(水)午後3時~午後5時

●会場:山形県産業創造支援センター

3)山形市よりの依頼

山形市と寒河江市が共同で開く合同企業説明会の案内の依頼があり、e.doyuで告知することになりました。

■閉会挨拶(齊加理事)



ゆたか  
**五十嵐 裕氏**  
グリーン加工 五十嵐  
代表  
食品加工業  
庄内支部

## 新会員紹介

### 会員名変更

●有限会社半澤鶏卵⇒株式会社半澤鶏卵  
代表取締役 半澤清彦氏(山形支部)

